令和６年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画	
学 校 運 営 方 針	平和で民主的な社会の形成者を育成することを目的として、豊かな人間性と健やかな身体を育み、科学技術の進展に対応できる創造的な能力と実践的な態度を養う。 【具体的な目標】 基礎的な学力および専門的な能力の向上を図る。／ スポーツ活動、文化活動に積極的に取り組む。／ 自他を敬愛し、ボランティアの心を育む。 【スクール・ミッション】 『ものづくり教育を推進し、技術革新に柔軟に対応できる生徒を育成する学校』 ・急速に発展する技術革新に柔軟に対応できる生徒を育成し、豊かな暮らしの実現と持続的に発展する社会に貢献する。 ・人々の心を潤すものづくり教育の学校として、豊かな社会生活を創造できる、イノベーティブな人材を育成する。 ・地域社会の様々な関係機関と連携した活動をとおして、社会の課題を見出し、協働しながら解決する力を育成する。
三つの方針(スクール・ポリシー)	
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら学び、自ら考え、自ら創造していく力を育成します。 ②急速に進展する技術革新に柔軟に対応し、新時代を牽引できる能力を育成します。 ③未来と世界を見つめ、豊かな暮らしと持続的に発展する社会生活に貢献する姿勢を育成します。 ④多様性を認め合い、お互いを尊重する豊かな心を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①専門学科に他学科の学びを融合させ、新たな価値を創造する教育活動を行います。 ②デジタル技術の活用に向けた体験的な学び（DX人材プログラム）をとおして、デジタル社会を牽引することを目指し、起業家精神を育成します。 ③タブレット端末や電子黒板などのICTを活用し、自ら学び、協働的に学ぶ学習を行います。 ④最先端の技術やものづくりの技術・技能を学ぶため、大学や企業等の関係機関と連携した取組を行います。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①ものづくりからデジタル技術など、様々な工業技術に興味、関心がある生徒 ②部活動、生徒会活動、地域との連携など、様々な取組や新しいことに意欲的にチャレンジする生徒 ③他者を理解し、協働することにより、人との出会いを自らの成長に繋げられる生徒 ④様々な学びを将来に活かし、自己実現を図りながら、豊かな社会の創造を目指す生徒

昨年度の成果と課題	年度の重点目標		具体的目標
【成果】 ・就職１次内定率92.8%, 最終就職内定率100%、公務員16人、国公立大学等進学者14人であった。 ・運動部・文化部ともに全国大会及び北信越大会に出場した。 ・学校見学会に参加して満足と回答した割合は、中学生が91.8%、保護者が88.2%であった。 また、今年度新規に、中学生とその保護者及び中学校教員を対象として実施した「授業見学ウィーク」では、参加して良かったと回答した中学生の割合は98.5%、保護者の割合は100%であった。 ・地域の小学校、中学校との連携を継続した。 ・体育祭を保護者へ公開したり、文化祭を一般の方へ公開したりするとともに、生徒会が日頃の取組をＳＮＳに164件発信するなど、教育活動の外部発信を推進した。 【課題】 ・令和６年度からの学科改編に係る新しい学校づくりの推進を継続する。 ・震災の影響を受けた施設設備がある中で、施設及び設備の使用時に工夫し、引き続き、生徒への丁寧な対応を推進し、安全、安心な学校づくりを推進する。	1 教育活動と震災復旧の両立	1	生徒の安全を第一に、各部署で融通し合いながら教育活動の充実を進める
	2 生徒主体の学校づくり	1	生徒が自ら考え、判断、行動ができ、活き活きと学べる学校づくりを進める
	3 選ばれる学校、開かれた学校、地域とともにある学校づくり	1	生徒の希望、保護者や地域の負託に応え、選ばれる学校づくりを進める
		2	学校の魅力を積極的に発信し、開かれた学校づくりを進める
		3	地域と連携した活動を推進し、地域とともに歩む学校づくりを進める
	4 新時代に対応した学校づくり	1	学科改編１年目の実践及び２、３年目に向けた計画と新しい時代に対応した学びを推進する
	5 キャリア教育の充実と進路実現	1	進路意識の啓発と関係部署の支援体制により、進路第１希望の実現を図る
		2	基礎学力と実践力を育成し、国公立大学入学者を増加させる
		3	就職希望者の進路実現に向け、資格・検定取得を推進する
	6 学習指導の充実	1	学びに向かう力、考える力を育成し、学力の向上を図る
		2	ＩCTの効果的な活用により、興味を持ち、わかりやすい授業を進める
	7 生徒指導の充実	1	生徒の「自己指導能力」を育成する
		2	多様性を認め合い、周囲を思いやる豊かな人間性を育む
		3	自らを律する規範意識を育成する
	8 部活動、生徒会活動の充実	1	部活動、生徒会活動等への積極的な参加により、総合的な人間力の育成を図る
		2	バランスのとれた心身の成長に適した活動を推進する
	9 働き方改革の推進	1	勤務時間、健康管理を意識した働き方改革を推進する
		2	健康で生き生きとやりがいを持って勤務できる環境を整える

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価		
1	1－1	保健体育科	震災の影響を受けた体育施設の復旧を見据えながら、合理的かつ計画的な学習活動の充実を図る	A		A
		生徒会 （部顧問会議）	各部が融通しながら充実した活動を送るための体制を構築するなど、体育施設の復旧状況に応じた部活動の充実を支援する	A		
2	2－1	生徒会 （生徒指導、保健防護、進路指導）	生徒と職員が意見交換する機会を設け、学校運営に反映させる	A		A
			さわやか挨拶週間、清掃強化週間等、生徒と職員が連携して行う行事を実施する	A		
		生徒会	生徒の自主性を活かした生徒会活動を推進する	A		
3	3－1	渉外	本校の学校運営方針を保護者に示し、PTA総会等の運営を通じて、保護者との連携を図る	A	A	A
		3学年	長期休業等を活用して保護者と面談を行い、また、生徒との定期的な面談を行い、生徒の希望について生徒・保護者・学校で情報共有する	A		
		2学年	長期休業等を活用して保護者と面談を行い、また、生徒との定期的な面談を行い、生徒の希望について生徒・保護者・学校で情報共有する	A		
		1学年	長期休業等を活用して保護者と面談を行い、また、生徒との定期的な面談を行い、生徒の希望について生徒・保護者・学校で情報共有する	A		

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価		
3	3－2	生徒会	北斗祭をはじめとした学校行事等において、時代に合った方法で外部に学校の魅力を発信する	A	B	A
		広報・地域 連携推進委員会	学校案内パンフレットをより魅力のあるものとし、高校説明会や学校見学会等で有効に活用する	B		
		広報・地域 連携推進委員会	各分掌、各科及び各部活動と連携を図り学校見学会を実施し、本校の教育活動を中学校生徒・教員・保護者に広報する	B		
		広報・地域 連携推進委員会	新たな広報媒体（動画等）の活用可能性を検討する	B		
		情報・視聴覚	学校ホームページを活用し、日頃の教育活動の様子を積極的に発信する	A		
		生徒会	活動の成果等を外部に発信する取組を通じて、学校に対する地域の理解を深める活動を行う	A		
	3－3	生徒会 （部顧問会議）	地域に求められる活動等を把握し、地域貢献に関する活動を行う	B	A	
		各工業科	出前授業の実施等、地域貢献に関する活動を行う	A		
		生徒会	地域と連携した取組に参加する等、地域活動の活性化に向けた活動を行う	A		
		渉外	地域の介護施設等と連携し、地域貢献に関する活動を行う	A		
4	4－1	学科改編検討委員会	学科改編前後の校内の学習活動を調整し、新しい学校づくりを進める	B	B	B
		コース選択検討委員会	学科改編前後の校内の学習活動を調整し、新しい学校づくりを進める	B		
	4－2	学科改編検討委員会	学科改編に伴う「くくり募集」による入学から、2年次の小学科所属までの学習計画について、学校設定科目「産業社会と人間」の内容調整等を通じて新しい学校づくりを進める	B	B	
		コース選択検討委員会	学科改編に伴う「くくり募集」による入学から、2年次の小学科所属までの学習計画について、「工業技術基礎」の内容調整等を通じて新しい学校づくりを進めるとともに、DX人材育成プログラムの具体を検討する	B		
		IT工学科	卒業時までの教育内容を見据えつつ、次年度の授業「実習」における各テーマをはじめとした、学習内容の具体を決める	B		
		機械科	メカトロニクス工学科機械工学コースの学習内容について、卒業時までの内容を見据えつつ、「実習」における各ワークショップのテーマをはじめとした次年度の学習内容の具体を決める	B		
		電気科	メカトロニクス工学科電気電子工学コースの学習内容について、卒業時までの内容を見据えつつ、「実習」における各ワークショップのテーマをはじめとした次年度の学習内容の具体案を決める	A		
		建築科	建築工学科建築デザインコース及び環境設備コースのの学習内容について、卒業時までの内容を見据えつつ、「実習」における各ワークショップのテーマをはじめとした次年度の学習内容の具体を決める	B		
		土木科	都市工学科の学習内容について、卒業時までの内容を見据えつつ、「実習」における各ワークショップのテーマをはじめとした次年度の学習内容の具体を決める	B		
		工業化学科	環境化学科の学習内容について、卒業時までの内容を見据えつつ、「実習」における各ワークショップのテーマをはじめとした次年度の学習内容の具体を決める	B		
5	5－1	進路指導	企業、上級学校との連絡を密にし、生徒にとってより効果的な情報を収集し、集めた情報を活用して、進路相談等を充実させる	A	A	A
		進路指導	学年と連携して進路行事を充実させ、生徒が主体的に進路を考える機会を設けることによりキャリア教育の充実を図り、進路意識の向上を目指す	A		
		1学年	学習習慣形成支援講演会や合格体験を聞く会をとおして、将来を見据えた進路選択ができるよう指導する	A		
		2学年	希望進路別進路ガイダンスの実施や、オープンキャンパスへの参加を促すことにより、具体的な進路目標の設定と進路希望達成に向けた計画を明確化させる	A		
		3学年	これまで進めてきた進路に関する指導のまとめとして、進路指導部と連携して、生徒の希望進路に応じた具体的で適切な進路指導及び支援を行う	A		
		教務	進路に関する選書等、生徒・教職員に必要な資料の提供を行う	A		
	5－2	進路指導	各教科と連携し、国公立大学受験希望者の学力向上に目指した個別指導計画を立案運営する	A	A	
		該当教科	進路指導部と連携し、効果的な小論文指導を実践する	A		
		3学年及び各工業科	進路指導部と連携し、効果的な面接指導を実践する	A		
	5－3	教務（及び渉外）	前年度の資格取得状況を公表し、資格取得に向けた意識向上を図る	A	B	
		各工業科	ジュニアマイスター顕彰の認定等に向け、専門性を活かした資格取得を推進する	B		
6	6－1	教務	教育活動の充実に向けて、各種指導計画を整え年間計画を立案するとともに、生徒の学習時間等を把握し、各教科に指導の参考資料として提供する	B	A	A
		国語科	漢字テストや校内統一学力テスト等を通じて、語彙力・読解力といった基礎学力の定着を図る	A		
		地歴公民科	地図・資料を積極的に活用するとともに、時事問題を取り上げ等、地歴公民分野への関心を高め基礎学力の定着を図る	A		
		数学科	副教材やプリントを用いて繰り返し演習を行うことにより、基本事項の確認と基礎学力の定着を図る	A		
		理科	観察や実験・演示をとおして、興味関心を高め、レポートや確認テスト等を通じて基礎学力の定着を図る	A		
		保健体育科	集団行動の意義を理解し礼法を身に付けるとととともに、団体種目をとおして協調性を育成する	A		
		芸術科	個性を生かした表現活動を行うことで、基本的な技術技能を身に付け、豊かな感性を育成する	A		
		英語科	検定等を活用し生徒が自身の英語力を把握した上で、定期的な補習等の個別指導を通じて、基礎学力の定着を図る	A		
		家庭科	身近な資料の提示や実習を多く取り入れることにより、自立した生活を営むために必要な基礎学力の定着を図る	A		
		機械科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場面が充実する教材を取扱い、また、工業基礎学力テスト等を活用し、基礎学力の定着を図る	A		
		電気科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場面が充実する教材を取り扱う	A		
		建築科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場面が充実する教材を取り扱う	A		
		土木科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場面が充実する教材を取り扱う	A		
		工業化学科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場面が充実する教材を取り扱う	B		

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価		
6	6－2	国語科	精読の場面等で電子黒板を活用したり、調べ学習や意見交換の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	B	A	A
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		地歴公民科	問題解説の場面等で電子黒板を活用したり、問題演習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		数学科	問題解説の場面等で電子黒板を活用したり、問題演習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		理科	観察・実験の映像やアニメーションを提示する場面等で電子黒板を活用したり、調べ学習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		保健体育科	応急手当の学習等で電子黒板を活用したり、体育理論の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		芸術科	鑑賞や調べ学習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	B		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		英語科	ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する。Show and Tellの原稿作成における調べ学習やプレゼンテーションにおいて、生徒にタブレット端末や電子黒板を活用させる。	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		家庭科	作業工程など学習の理解を助ける教材を提示する場面等で電子黒板を活用したり、学習に関しての調査活動の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		IT工学科	IT工学に関わる学習指導の場面等で電子黒板を活用したり、工業技術基礎の実習場面等で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		機械科	機械技術を図や表を使って説明する場面等で電子黒板を活用したり、問題演習や用語調べの場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		電気科	課題研究などの授業で、Google Classroomを利用してグループによる調査研究を行い、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って評価を行い、指導に活かす	A		
		建築科	建築に関わる学習指導の場面等で電子黒板を活用したり、実習や製図、課題研究の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		土木科	土木技術の説明をはじめ専門分野の学習活動の場面等で電子黒板を活用したり、問題の演習や対話的な学びを実践する場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B		
		工業化学科	工業化学にかかわる学習指導や活動の場面等で電子黒板を活用したり、問題演習、専門分野調査の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
7	7－1	生徒会	生徒によるいじめ防止の呼びかけ等を実施し、生徒同士が互いの人間性を高める取組を行う	B	A	A
		人権教育・同和教育推進委員会	全校生徒及び職員対象の人権教育に関する講演会を開催する	A		
		人権教育・同和教育推進委員会	教員研修会を年2回（現地研修、校内研修会）以上行い、差別の実態に学び、生徒への人権教育に生かす	A		
		生徒指導	「ゲートキーパー研修」及び「SOSの出し方授業」を実施し、生徒の心の安定を図る	A		
		生徒指導	教科及び委員会と連携して、「SNSに関する教育」、「インターネットトラブル防止」、「情報モラル」に関する学習機会について、企画し実施する	A		
	7－2	いじめ対策 生徒支援委員会	定期的に「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努める	A	A	
			アセスメントを活用して生徒の困り感を把握し、職員間で情報共有し支援につなげる	A		
			いじめ対策に資する職員研修を年3回以上実施する	A		
		制服・校則検討委員会	制服や校則について考える機会を提供する	B		
	7－3	生徒指導 （生徒会）	風紀委員会を中心とした生徒への呼びかけを実施し、基本的生活習慣の確立や規範意識の向上に努める	A	A	
		生徒指導	身だしなみ検査を実施し、全職員でマナーアップに向けた指導を行う	A		
		生徒指導	バイク実技講習会、交通講話、薬物乱用防止講話等を通じ、規範意識を醸成する	A		
		保健・防護	ゴミ分別の指導を徹底し、環境美化、安全確保の意識を醸成する	B		
8	8－1	生徒会 （部顧問会議）	部活動を奨励し、生徒の放課後の充実を図る	A	A	A
		生徒会	生徒の自主性を活かした、体育祭、北斗祭の成功を目指す	A		
	8－2	保健・防護	保健だよりを計画的に発行し、心身の成長に適した行動を推進する	A	A	
		保健・防護	防災訓練を実施し、緊急時における対応に対する備えを行い、安心して生活できる力を養う	A		
		生徒会 （部顧問会議）	部活動の在り方に関する総合的なガイドラインに沿った適切な部活動を行う	A		
9	9－1	企画調整会議	定時退庁日や学校閉庁日の設定を通じて、勤務時間の適正化に努める	B		B
	9－2	安全衛生委員会	学校管理医とも連携しながら、勤務時間や職場環境の適正化に努め、ストレスチェック制度の結果等を活用し、職場環境を整える	B		

成果	【成果】 ・就職１次内定率98.5%, 最終就職内定率 100%、公務員16人、国公立大学等進学者 13人であった。 ・運動部・文化部ともに全国大会及び北信越大会に出場した。 ・学校見学会に、中学生415人、保護者138人が参加し、実施したアンケートのうち「参加して満足」と回答した割合は、生徒、保護者とも92.4%であった。 ・地域の小学校、中学校との連携を継続した。 ・文化祭を一般の方へ公開したりするとともに、生徒会は日頃の取組をＳＮＳに176件、ﾒﾃﾞｨｱﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑNoteに99件の記事を投稿するなど、教育活動の外部発信を推進した。 【課題】 ・令和６年度入学生からの学科改編に係る新しい学校づくりの推進を継続する。特に、くくり募集で入学した１期生が各小学科に分かれて学習を開始する初年度であることを踏まえ、専門科目の内容の精選を進める。 ・令和６年能登半島地震の影響を受けた施設設備の復旧が一部終えていない状況下で、施設及び設備の使用方法等を工夫し、引き続き生徒への丁寧な対応を推進し、安全、安心な学校づくりを推進する。	総合評価 B